



発行日 2018. 2. 6

生活クラブ連合会
TEL:03-5291-6700
FAX:03-5285-1839

★夢都里路くらぶフェア（企画説明会）開催します！

●夢都里路くらぶフェア（新宿）

日時；2018年3月3日（土）13時～16時

場所；生活クラブ連合会

（地下鉄副都心線大江戸線 東新宿駅下車 徒歩7分）

【新産地の紹介】

「歴史深い町 わたらいで、農薬を使わないお茶づくり（仮）」（株）新生わたらい茶 前川大介さん

◆生産者ブースごとに企画の説明

◆就農相談コーナー

◆遊佐町移住・定住相談

新規企画多数

「新茶の手摘み作業」（株）新生わたらい茶（三重県） / 「サラダ玉ネギの収穫作業」（JA加美よつば（宮城県）） / 「りんごの摘花作業」（JAさくらんぼ東根大富支所（山形県）） / 「ニラ定植作業の援農」（栃木県開拓農協（栃木県）） / 「高原農場でのピーマンの定植」（塩尻市北小野地区（長野県）） / 「新じゃがいも・たまねぎの収穫」（ながさき南部生産組合（長崎県）） / 「ガッツリ農産加工！畑から工場まで（いつでも援農）」（西日本ファーマーズ エコ中国（やさか共同農場；島根県））



★春の新産地を紹介します

◆（株）新生わたらい茶（三重県）

伊勢茶の中でも度会町で栽培されるお茶は「わたらい茶」と呼ばれ、古くから親しまれてきました。生活クラブとの提携は1976年から。戦後、近代化のかけ声とともに、茶栽培でも化学肥料の多投や農薬、除草剤の使用により収穫量が増し、品質も良くなりました。しかし反面、残留毒性による人体への安全性問題や、土壌をはじめとする生態系への悪影響など、様々な問題が浮上してきました。その反省から、グループは1973年に有志を集め、有機栽培による茶作りを始めました。

春の新企画は「新茶の手摘み作業」

◆4月28日（土）～4月30日（月）（予定）

◆集合/解散 JR松阪駅



★実際の作業に関わると普段は見えない生産の実態が見えてきます！

●「欠品なく出荷させるための労力が見えた」小ネギのハウス栽培（農）ながさき南部生産組合

・生産組合員は従前140名程度おられたが現在106名で運営されており、年々高齢化のため減少し将来が心配とのこと。一方、受入農家宅は御夫妻、祖母、息子の三世代で作業されており、理想的な家族のよう。特に80歳の祖母は今もバイクを運転し、仕事も迅速で60年の年季を感じました。（兵庫、60代男性）

●「出荷までに膨大な作業があるんだと実感」段々畑のみかん山&海体験（西日本ファーマーズ エコ四国（無茶々園））

・みかんの段々畑と、穏やかな宇和海は見事な風景でした。豊かな漁場には、豊かな山の樹木や農薬などの化学物質の海への流入が少ないことが大切なことを、五感で学びました。環境や栽培する人への負荷の少ない農業の取り組みや、その農家さんや、漁師さんを束ね、市場とつなぐ無茶々園の設



みかん段々畑と海

立理念を知ることができました。日々、食べるものを消費する生活を送る私は、ここで見た自然、栽培・漁・加工・選別・流通などに携わる様々なたたくさんの人を思い浮かべ、感謝して、いただきたいと思います。（大阪、50代女性）

●「農業の一端を見られる楽しくも貴重な体験」

秋冬白菜の収穫作業（JA加美よつば）

・白菜の収穫（畑の白菜を収穫し、かごに入れて車に積み倉庫まで運ぶ）、泥ネギの皮むき作業（根切り、エアーでの皮むき）を行いました。お米の産地として新しく加わったくらいのことしか知らなかった加美町の、風土というものを肌で感じた。白菜はずっとしりと重く作業は厳しいと感じたが、生産者やJAの皆さんは軽々と作業をこなしていたのが印象的だった。農家民宿の料理は野菜ずくしで種類も多く、感激しました。（埼玉、50代女性）



白菜の収穫